

① 「子が15歳以上の養子縁組家庭の生活実態調査」 結果発表

日本財団 ソーシャルイノベーション本部
福祉特別事業チーム
チームリーダー 高橋 恵里子
(たかはし えりこ)

1. 特別養子縁組への取り組みの背景

- ・日本では社会的養護を必要とする子どもの85%が施設養護。里親や養子縁組など、家庭養護の取り組みは少なかった。
- ・国連の指針では、生みの親もとに戻ることのできない子どもは、養子縁組で恒久的な家庭を得ることが優先とされている。
- ・日本財団は、日本でも特別養子縁組が児童福祉として位置づけられることを目指し、2013年よりプロジェクト開始。政策提言や、児童福祉法改正の署名キャンペーンなどを実施。
- ・2017年4月1日に施行された改正児童福祉法で、子どもは里親や養子縁組などの家庭で育てること（家庭養護）が原則となった。また養子縁組が児童相談所の業務として位置づけられた。

詳細は「日本財団ハッピーゆりかごプロジェクト」ウェブサイト

<http://happy-yurikago.net/>

2. 養子縁組家庭の調査の背景

- ・日本では、養子縁組成立後の家庭へのアクセスが難しいことから、養子縁組家庭を対象とした調査が少なく、実際に養子縁組をした親子の現状がわかりにくかった。



そのため、日本財団で養子縁組家庭を対象とした調査を実施。

<調査の目的>

- ・子ども（養子）とその父母（養親）の生活状況を明らかにすること
- ・今後の支援策などの検討を行うための基礎資料とすること

3. 日本財団が実施した養子縁組に関する調査

(1) 養子縁組家庭に関するアンケート調査 (2016年12月公開済み)

対 象 : 15歳以下の養子がいる家庭

発 送 : 263世帯

回 収 : 170世帯 (回収率64.4%) 親168件、子ども89件

協力団体 : 2団体

(公社) 家庭養護促進協会大阪事務所、(特非) 環の会

(2) 子が15歳以上の養子縁組家庭の生活実態調査 (2017年4月3日発表)

発 送 : 878世帯

回 収 : 親 294件 (回収率33.5%)、子ども 211件 (回収率24.0%)

協力団体 : 8団体

(公社) 家庭養護促進協会大阪事務所、(公社) 家庭養護促進協会神戸事務所、

(公財) 全国里親会および各里親会、(特非) 環の会、

(一社) 命をつなぐゆりかご、絆の会、特別養子縁組グミの会、絆親子交流会

青年期以降の養子を対象とした調査としては32年ぶり。

また、児童相談所と民間養子縁組団体のケースについて、

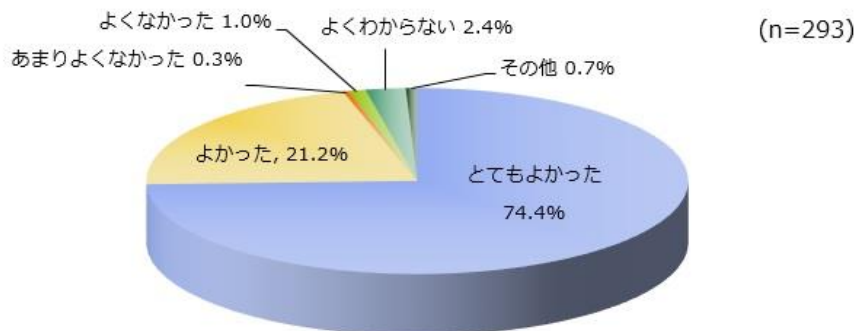
複数の団体を横断的に調査したものとしては、日本で初めてとなる。

4. 子が15歳以上の養子縁組家庭の生活実態調査 主な結果より

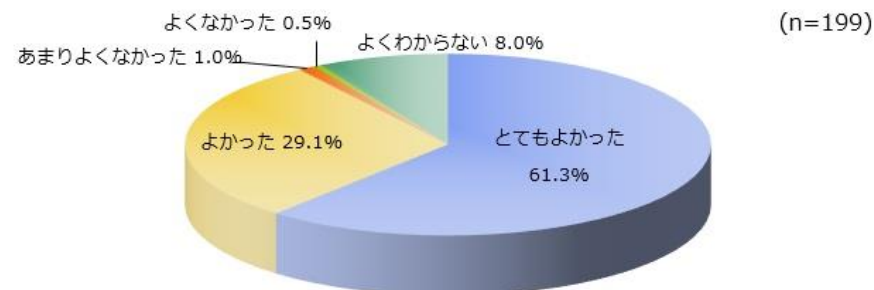
①養親の95.6%は
子どもを育ててよかったと
感じている。

②子どもの90%は
養父母に育てられてよかったと
感じている。

質問：子どもを育てたことについて（親Q.25）



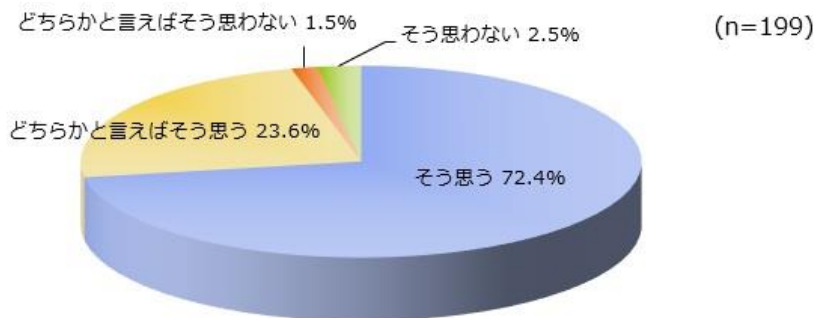
質問：父母に育てられたことについて（子Q.42）



4. 子が15歳以上の養子縁組家庭の生活実態調査 主な結果より

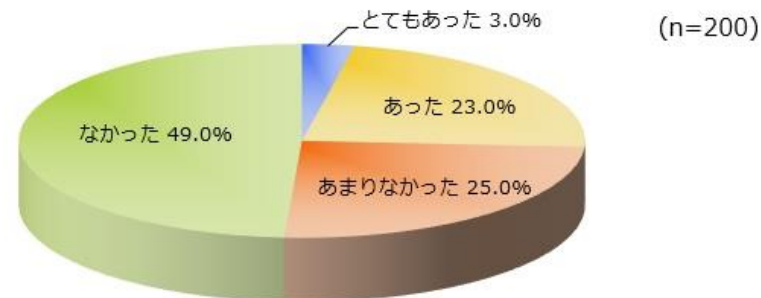
③子どもの96%は、
親（養父母）から
愛されていると思っている。

質問：自分の親から愛されていると思う（子Q.38）

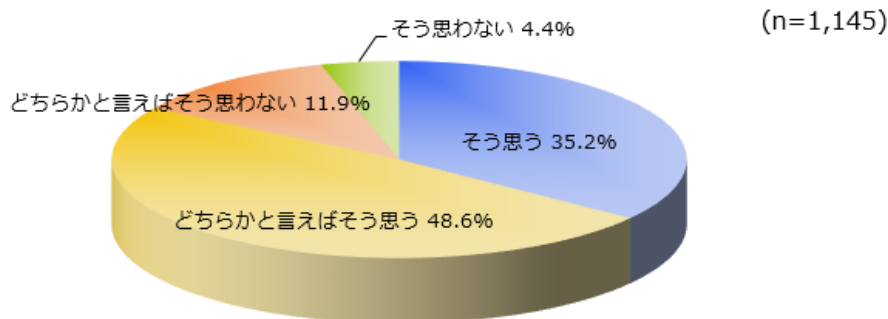


④子どもの26%は養子であることで
嫌な思いをしたことがあるが、
74%は嫌な思いをしたことはない。

質問：養子であることで嫌な思いをした経験（子Q.43）



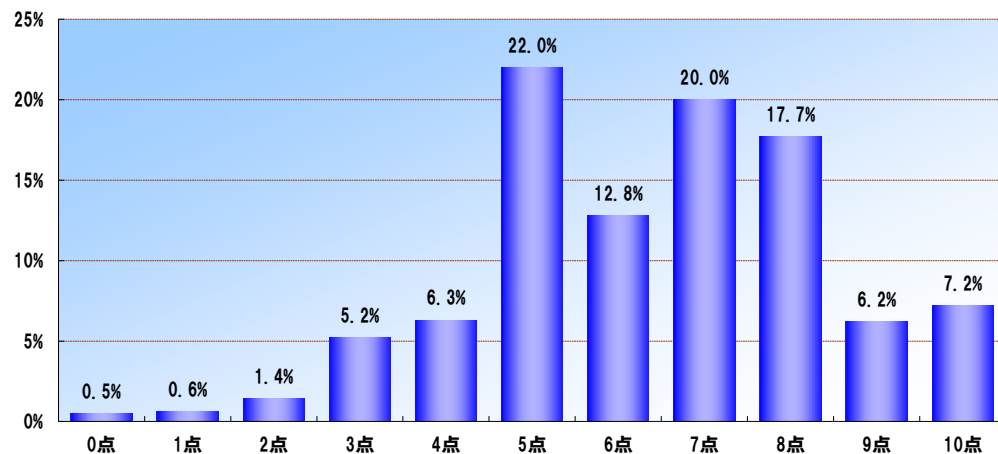
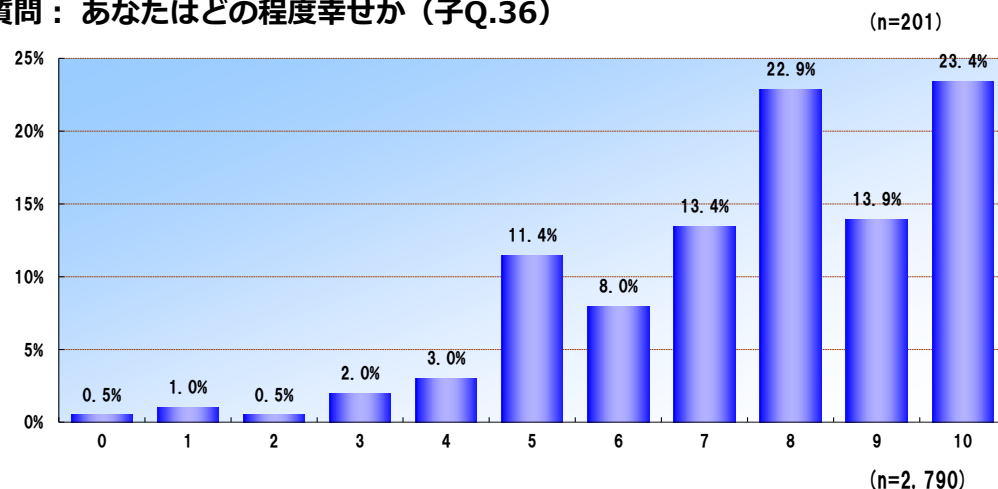
【「我が国と諸外国の若者の意識調査」との比較】



4. 子が15歳以上の養子縁組家庭の生活実態調査 主な結果より

⑤子の幸福度の平均は 7.6 で一般平均の6.41よりやや高い。

質問：あなたはどの程度幸せか（子Q.36）

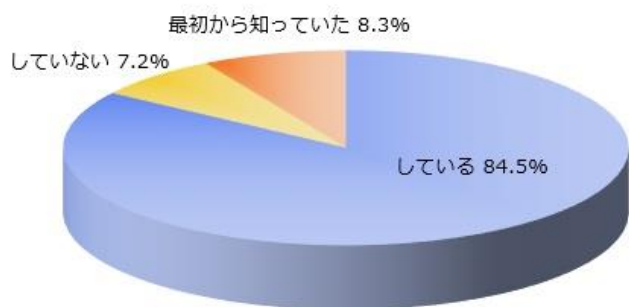


【「国民生活選考度調査」との比較】

4. 子が15歳以上の養子縁組家庭の生活実態調査 主な結果より

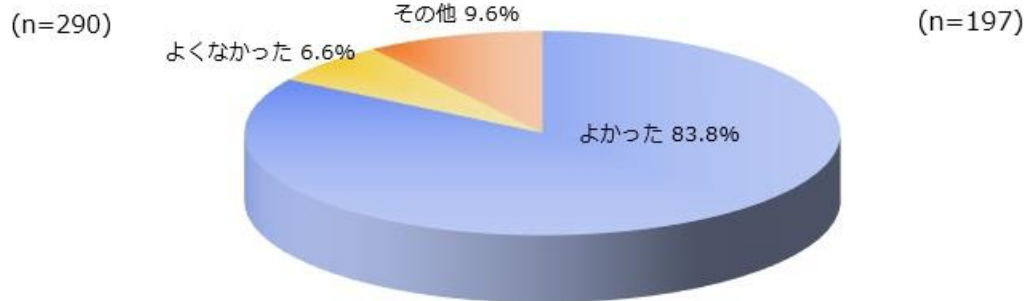
⑥子どもの92%は、
自分が養子であることを
知っている。

質問：真実告知（親Q.22）



⑦子どもの83%は、
真実告知を受けてよかったと
思っている。

質問：父母が育ての親であることを知ることについて（子Q.40）



4. 子が15歳以上の養子縁組家庭の生活実態調査 主な結果より

- ⑧養子は里親家庭、児童養護施設出身者と比較すると、
専門学校・短大・大学への進学率が高い。

「社会的養護における自立支援に関する資料」
（第10回 新たな社会的養育の在り方に関する検討会 参考資料1）との比較】

	今回調査 (養子縁組)	里親委託	児童養護施設	全中卒者 ／全高卒者
高校への進学率	99.3%	97.1%	97.0%	98.8%
専門学校、短大、 大学などへの進学率	69.8%	49.3%	23.3%	77.0%

※専門学校は専修学校、各種学校、公共職業訓練施設を含む。

4. 子が15歳以上の養子縁組家庭の生活実態調査 主な結果より

⑨制度やアフターケアについての主な要望

【養親側】

- ・ 養子縁組が成立すると児童相談所などからのサポートがなくなるが、養育里親と同じような支援が欲しい。
- ・ 当事者の交流が大切だが、交流の場が少ない。
- ・ 生みの親や出自に関する情報提供の仕組みが必要。

【養子側】

- ・ 継続的なフォローが必要。悩みを相談できる人や機関が欲しい。
- ・ 生い立ちを知ったり、生みの親にあったりしやすい仕組みが欲しい。

5. 調査結果のまとめ

- 9割以上の養親は子どもを育てたことを良かったと感じている。
- 9割の子どもは親（養親）に育てられて良かったと感じており、親から愛されていると感じている。
- 養子縁組で嫌な思いをした子どもは、4人に1人はいる。
- 9割以上の子どもが自分が養子であることを知っている。
また、真実告知を受けた子どもの8割以上は、知ってよかったと思っている。
- 養子縁組家庭で育った子どもは、児童養護施設や里親家庭出身者と比較すると、学歴が高い。
- 養子縁組成立後の長期的な支援、当事者との交流の機会、出自を知るための制度の拡充等が望まれている。

参考：4月4日は「養子の日」

「よ～しの日」キャンペーンとして、日本財団1階でパネル展を実施中



養子を迎えたお父さん・お母さんの気持ち
(アンケートの自由記述より)



日本財団
ハッピーゆりかご
なほ

日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

本プロジェクトは、生みの親と養子の
特別養子縁組や養親制度のさらなる
確やかに育つことができる社会

活動内

- イベント、冊子、ホームページ
- 調査研究や政策提言
- 生親や養子縁組に関する研究
- 民間養子縁組団体への資金
- 子どもの家庭養育推進官民共

日本財団ハッピーゆりかごプロジェクト
<http://happy-yu>